



牧之原市消防団 新入団員募集！

牧之原市消防団は、現在438人で活動しています。市民の安全安心のため、地域防災の中核を担っています。

「消防団Q&A」

**Q 消防団はどんなことをするの？**

**A** 消火活動、風水害対応、花火大会警備、防災訓練などの地域活動のほか、さまざまな行事に参加します。

**Q 消防団に入るためには？**

**A** 市内に居住、勤務、在学する人で、年齢が18歳以上なら、誰でも入ることができます。

**Q 仕事で忙しい場合は？**

**A** もちろん仕事や学業を優先してください。団員は、仕事や学業と両立し、家庭の協力を得ながら、空いた時間で活動しています。

**Q 消防団はボランティアなの？**

**A** 消防団員は非常勤特別職の地方公務員です。活動に必要な資機材は無償で貸与され、活動年数に応じた退職報奨金が支給されます。公務災害補償など福利厚生も充実しています。

**Q 消防団に入って良かったことは？**

**A** 地域や仲間とのつながりがで



出初め式でのカラー放水(前年の様子)



保育園での花火教室

女性消防隊

牧之原市消防団女性消防隊を知っていますか？

女性消防隊は、火災現場へ向かう男性消防団員とは違い、女性ならではの視点から地域に貢献する活動をしています。女性消防隊では、新入団員を随時募集しています。ぜひ入隊して、私たちと一緒に活動してみませんか。

「具体的な活動例」

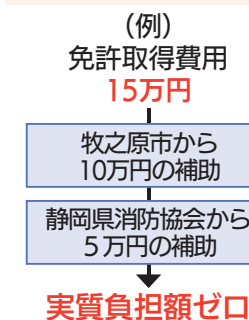
- 応急手当普及員の資格を取得し、地域で応急救護普及活動を実施
- 幼稚園、保育園をまわり、子どもたちへ花火の安全な遊び方を教える花火教室を実施
- 全国女性消防団員活性化大会への参加
- 辞令交付式や出初め式など、消防団式典への参加
- その他、夜警巡視など啓発活動や広報活動を実施

準中型自動車運転免許の取得費用を補助します

平成29年3月12日の法律改正により、普通免許で運転可能な車両総重量が3.5トンに変更されました。そのため、法改正後に取得した普通免許では、市消防団で所有する3.5トン以上の消防車両を運転することができなくなりました。

そこで市では、消防団員を対象として、準中型自動車運転免許取得費用の補助制度を創設しました。その他、静岡県消防協会の補助制度も併せて利用できます。

準中型自動車運転免許取得事業費補助制度



準中型自動車運転免許

平成29年3月12日に新たに施行された、「普通免許」と「中型免許」の間に当たる新しい運転免許の種類。この免許を取得することで、車両総重量7.5トン未満、最大積載量4.5トン未満の車両を運転することができます。

消防団からのお知らせ

①災害情報テレフォンガイド

市内で発生した火災などによる消防署の出動情報を入手できます。

☎018(099)5678

\*通話料金が発生します。  
\*一部の電話では利用できない場合があります。

②まきのはらTeaメール・LINE公式アカウント

建物・山林火災情報については、メールとLINEで配信しています。

③まきのはらTeaメール

左のアドレスを直接入力するか、下記QRコードを読み取り、空メールを送って登録してください。

✉bousai.makinohara-city@aiden2.ktaiwork.jp

④LINE公式アカウント

ホーム画面で「牧之原市」と検索するか、下記QRコードを読み取り、友だち登録してください。



まきのはらTeaメール



LINE公式アカウント

③夜警巡視にご協力を

消防団では、夜警巡視を12月から2月末まで実施し、火災の発生予防および早期発見に取り組んでいます。夜間に警鐘を鳴らした消防車輦で巡回しますので、ご理解とご協力をお願いします。巡視期間や時間帯は、地域により異なります。

④新春出初め式

令和5年牧之原市消防団出初め式を執り行います。1年の無火災・無災害を祈願します。

ただし、新型コロナウイルス感染症の拡大状況などにより、式典を中止する場合があります。

日時 令和5年1月8日(日) 午後1時～(予定)  
場所 相良中学校

メッセージ

第4分団から (牧之原区)

青野 翔希 分団長



私たち第4分団は、牧之原区を管轄しており、39人で「自らの地域は、自ら守る」を胸に、消防団活動を行っております。最近では火災だけでなく、竜巻災害や大雨災害などが記憶に残っており、消防団が必要とされることが多くなっていると感じています。市民の生命財産を守るため、私たちと生まれ育った地域を守っていきませんか。

第9分団新入団員から

紅林 典明 団員 (菅山区)



正直、最初は自分に務まるのか不安でした。ですが、先輩方が優しく丁寧にいろいろなことを教えてくださいました。竜巻や台風、火災の際の出動を通して、改めて消防団の必要性を実感しています。まだまだ設備の使用や現場の立ち回りなど学ぶことはたくさんありますが、これからしっかり覚えていきたいと思っています。